

泉佐野
発

日本一の「まちづくり」

自由民主党 泉佐野市会議員団

千代松 大耕

ちよまつ ひろやす

財政健全化計画②



財政健全化計画

私が市議会議員に初当選させていただいてから、もうすぐ丸10年となりますが、泉佐野市はこの10年前から色々な取組を見せて財政の健全化に力を注いできました。財政的に一番の危機的な状況にあったのは平成16年〜18年度にかけて財政健全化をしていた時期でありました。このときは大阪府の特別府貸付金の金利を約14億円軽減してもらったために約束した一般会計の累積赤字の解消を健全化計画によっておこなっていた時期でしたが、三位一体改革、また固定資産税の評価替えの影響を受けて本当に厳しい時期でした。泉の森ホール、体育館などの公共施設の週2日閉館、コミュニティバスの運行縮小、公共料金の見直しなど、多くの事務事業の見直し、縮小、廃止をおこない、市民の方々に大変なご負担をさせていただき、おかげさまでこのときの危機を脱し、一般会計における黒字化を達成することができました。しかしながら北海道の夕張市が破綻したことによって、新たに国が設けた基準にひっかかるところが出てきたわけでありました。私がここでお伝えしたいのは泉佐野市は、「決して夕張市のように破綻してしまっただけではなく、また夕張市のように破綻してしまう自治体ではない。」ということでありました。

市民の方々の中には早期健全化団体の適用を受けるようになった泉佐野市が破綻してしまっただけで、また破綻してしまっただけではないかと新聞報道によって誤解をされました。泉佐野市は財政健全化法に基づいて「財政健全化計画」の策定が義務付けられ、20年間をかけて早期健全化団体から脱するために約460億円の財政改善する計画案を策定しました。その中身につきましては「20年間をかけて200人の職員削減」で約200億円の改善、「遊休用地の処分」によって約54億円の改善、「投資的経費の見直し」によって約80億円の改善、「使用料手数料等の見直し」によって約9億円の改善、「宅地造成事業会計の廃止」によって約66億円の改善などがあります。このような項目を盛り込んで泉佐野市の健全化をおこなっていきます。しかしながら今回の健全化に際しては安易に市民負担を増やすということとは絶対にあってはならないし、またこの10年間で積みもりに積もっている市民の要望はなるべく実現に移していくというのが私の考えであります。泉佐野市はこれまでの財政健全化の取り組みのために公共料金を改定してきました。多くの公共料金は府下で高い水準に達しています。また老朽化した学校施設などの建替えも先送りし、ようやく実現に移せるようになってきたところでありました。この流れをストップせずに財政健全化をしていく、市民負担を増やさずに財政健全化をしていくというバランスを図っていかねばならないと考えています。

財政健全化に向けて①

市民負担を増やさずに財政健全化するにはどうすればいいのか？一番考えるのが「職員数の問題」であります。9月議会で示された財政健全化計画の案の中には「20年間で200人」の職員削減が盛り込まれましたが、私は泉佐野市なら後100人、つまり「300人」の削減は可能だと考えています。消防の広域化が現在、泉大津市以南で検討をされていますが、そういった事務事業の広域化や、また市立病院の独立行政法人化が計画されている中では市の事務職員は市立病院から戻ってくることにあります。また特別会計の徴収事務の効率化や民間委託、そしてゴミ収集などの民間への業務委託をさらに進め、さらには生涯学習センター、図書館、公民館など指定管理者制度を活用できる施設はさらに指定管理を進めていきます。

このような行政のスリム化を図っていくことによって300人は職員が削減できると考えています。このことによつてあくまで単純な計算ですが、20年間で100億円の財政効果を上積みできることとなります。実際に健全化計画全体では460億円の財政効果を出すことを掲げていますが、その中でもこの部分が一番大きいので、ここを何とかすることによって市民の負担増や事業をストップせずとも財政健全化することができると考えています。そうならば職員は今より大幅に減ることになるので一人当たりの業務量も多くなるのは当然のことですが、もちろんそのための職員の資質の向上も怠ってはなりません。有能な職員を育成していくにはどのようにするのか、私は国や府にどんと泉佐野市の若い職員を出向させて、専門的な分野の知識を向上、また補助金確保の仕組みの習得などの取り組みを進めていくべきだと考えています。またコスト意識や目標意識の向上などには庁内における環境ISO取得に向けた取組や行政評価システムのさらなる徹底が必要になってきますし、どうしても人手足りなくなる部署などは経験豊かな職員を再任用することによって補います。もちろん職員だけでなく議員の定数削減、報酬削減もしていかなければなりません。現在、議会改革検討会では議員定数を削減するという方向性が概ね決まりました。私の会派が主張する定数2名削減がおこなわれれば、来年の改選からですので20年間で単純に約4億円の財政効果を出せます。またあわせて私の会派が主張する10%の議員報酬の削減がおこなわれれば、あわせて約8億円の財政効果を生み出せます。市民負担に直結する「使用料手数料等の見直し」約9億円の大部分を捻出することができそうです。このような部分をどうにかすることができれば、市民負担に直結するような痛みを伴わずとも、事業をストップせずとも財政の健全化が成し得られると一番に考えています。

泉佐野市には「泉佐野市宅地造成事業会計」という企業会計があります。この会計は旧市民病院跡地、市民会館跡地（泉佐野駅近く）、センタービルの一部、白水池跡地（日根野駅前）といった土地を保有していた会計です。いわゆる塩漬けになつていった土地を抱えていた会計です。このうち旧市民病院跡地は市民のみならずもご存じのとおり生協に売却しました。まもなく「C O I O P」がオープンいたします。また市民会館跡地は一般会計で買い戻して、現在も駐車場として利用されています。そしてセンタービルの一部も一般会計で買い戻して9月議会で横浜市の企業に売却することが決定しました。残っているのは白水池跡地の一部だけです。以前に白水池跡地のところでは大和ハウスなどがマンションを建てました。現在のこの会計で持っている土地はコインパーキングなどの白水池跡地の一部だけですが、実はこの会計は約65億円の負債を抱えています。なぜこのような負債を抱えているかと言いますと保有していた土地を売却してきて（特に旧病院跡地）売却損を出してきたからです。その負債を短期の借入でまわしてきました。今回、この短期の借入を今年度から始まった「第三セクター改革推進債」という長期借入に振り替えます。そしてこの会計を泉佐野市は今年度で廃止します。短期の借入ですと年間この会計だけで金利が1億数千円かかっています。以前に旧市民病院跡地をフットサルコートなどで貸していたのですが、2,000万円の賃料しか入ってこなかったというように、金利分もまかなえないといったようなひどい会計でした。

泉佐野市としても早くこの会計を何とか処理したかったのですが80億円以上（当時）の金額を一般会計から投入して、この会計を廃止する余力が一般会計に全くありませんでした。国の方で新しい制度が出来ましたので、これを機会に廃止します。「以前のつけを後年度に先送りするな。」といった意見が9月議会でありましたが、今までのように短期の借入でまわしていくには金利もかさみますし、連結決算上で、この会計が泉佐野市の足を大きく引っ張っていました。国の方で新しい制度が出来たこの機会に、この会計を廃止すべきであります。

市民負担を増やさずに歳入をより確保していく、つまり増収をしていくのかといったことを最後に書かせてもらいます。それは市が示してきた財政健全化計画の案の中にもあったことです。遊休地を売却することによって一時的にお金が入ってきますし、また非営利法人以外に売却することができれば、そこから固定資産税が入ってくることもあります。廃止する宅地造成事業会計や土地開発公社が保有していた土地の売却を進めていきます。これらの中には泉佐野駅前の二丁目跡地や日根野駅前の白水池跡地の残りなど駅前の土地があります。こういった公有地の売却は現在も進めていることで、9月議会で東佐野駅近くの「竜池」やセンタービル内にあった市が保有をしていた部分を民間に売却しました。しかし私は売却するのはいくらか買手がつくだろうという「まともな土地」以外にも泉佐野市は、色々と細かい土地を持っています。以前にあった話ではありますが「水が流れていない水路の跡地」があり、その土地は市の所有でした。その土地をとなりの民間の方が購入されました。こういった土地は市内各所にあります。このような土地を洗いざらいリストアップし、もちろん買手がある、なしの問題があるのかと思いますが、市としては売却を進めていくべきです。「水が流れていない水路の跡地」は市の管理でしたので市が草刈りをしていました。それに対して年間いくらかの経費がかかっています。これに對しても年間いくらかの経費にもなっています。遊休地の売却によって現在の財政健全化計画では54億円の財政効果額を上げていますが、スピードを速める、そしてもっと細かい土地まで進めていくことでさらなる上積みが可能であります。今回は国が用意した制度によって宅地造成事業会計を廃止します。また土地開発公社の保有地も以前と比べて処分をしやすいになりました。この機会に抱えている遊休地の処分のスピードを速めていくべきであります。「土地が下落している中にある地を売るタイミングが大事」と言う市の職員もいますが、それを見誤って莫大な借金を抱えてしまいがちです。このことに関しては、タイミングが大事だと考えています。

千代松大耕 プロフィール

- 1973.10.3 泉佐野市松原生まれ
 - 1986.3 泉佐野市立第一小学校 卒業
 - 1989.3 泉佐野市立佐野中学校 卒業
 - 1992.3 同志社香里高等学校 卒業
 - 1996.3 同志社大学経済学部 卒業
 - 1998.7 米国Lincoln University 大学院 修了
 - 2003.3 大阪府立大学大学院 修了
 - 2005.3 和歌山大学大学院 修了
 - 1999.4 株式会社 堀場製作所 入社
 - 2000.2 泉佐野市議会議員初当選
 - 2002.5 泉佐野市議会議員2期目当選
 - 2006.5 泉佐野市議会議員3期目当選
- (現在)**
- (社) 泉佐野青年会議所 直前理事長
 - (NPO) 大阪夢づくり協議会 理事
 - 泉佐野市バレーボール連盟 会長
 - 泉佐野市柔道連盟 理事
 - 泉佐野市青少年指導員
 - 泉佐野市交通指導員
 - 泉佐野市私立幼稚園連合会 顧問



岡空株式会社 福島社長と

- (議会)**
- 2003.5 市町村合併検討委員長
 - 2004.5 第61代副議長
 - 2005.5 厚生文教委員長
 - 2006.5 監査委員
 - 2007.5 行財政委員長
 - 2008.5 第65代議長
 - 2009.5 議会運営副委員長
- 泉佐野青空市場活魚協同組合 顧問
(社) 全国自衛隊父兄会泉南支部 顧問
同志社大学体育会アメフト部OB会 常任理事
同志社大学校友会泉州クラブ副代表
佐野中柔道部OB会 相談役
日本教育再生機構大阪 泉佐野支部長
看護を考える地方議員の会 副幹事長
自由民主党泉佐野支部 政務調査会長
自由民主党大阪第19選挙区支部 青年部長

千代松大耕ブログ「Izumisano未来日誌」を開設いたしました！

Izumisano未来日誌 検索

今後の「かけはし」予定
千代松大耕が市民のみならずと市政をつなぐ架け橋となるため、市政勉強会「かけはし」を月に一回開催しています。前半は私がお話します。後半は市民の方々の意見交換やご質問にお答えいたします。どなたの参加もOKです。お待ちしております！

第59回「かけはし」…	11月23日(木)
第60回「かけはし」…	12月24日(木)
第61回「かけはし」…	1月28日(木)
第62回「かけはし」…	2月25日(木)

- 場所 泉の森ホール 2F 小会議室
- 時間 19:30~20:30
- 参加費 **無料**

連絡先：泉佐野市松原2-5-31 TEL 458-1708 FAX 469-0311
ホームページ：http://www3.ocn.ne.jp/~chiyo51/
メール：chiyoma51@hotmail.com
発行部数累計 621,500部 第61号
*「まちスケ」のバックナンバーが必要な方は連絡ください。